

プロジェクションマッピング手法を用いた イベントなどにおける効果的な 視覚情報伝達について

芸術学部
ソーシャルデザイン学科
准教授

岩田 敦之



研究シーズの紹介

イベントなどにおいてプロジェクションマッピングの活用は進んでいますが、アートやエンターテイメント分野での限られた用途に限られています。そこで当研究室では、投影面積の大きさを生かした高い視認性や瞬間的な情報の切替などの特性を活かした効果的な視覚情報伝達の形を模索することによって、映像投影の新たな活用方法についての研究を進めています。

本研究では、古典的な演出が行われることの多いバレエの舞台美術や、夜間イベントでの空間演出としてのプロジェクションマッピングの活用を行いました。バレエイベントでは、照明や紗幕などの舞台装置との連動によって、レイヤー効果を活かした印象的な演出が実現できました。

プロジェクターを活用した 視覚情報伝達

- 映像投影技術の活用で状況に合わせた情報提供が実現可能
- イベントなどで視認性の高い情報伝達が可能



Voyage De Tchaikovsky 《チャイコフスキーの旅》



BUBBLEs! 夜のカラフル水族館

期待される活用シーン

- 夜間イベントなどで、状況に合わせ必要な情報を分かりやすく来場者に伝えたい。



- 会議などで使用する小型プロジェクターなどでも運用可能なため、手軽に情報伝達を行えます。



- 夜間のイベントでは、欲しい情報が手に入りにくい。歩きスマホは危ないし…。



- 夜間でも明るく見やすく、状況に合わせて必要な情報が取得できます。



他の研究テーマ

モーショングラフィックスを用いたビジュアルコミュニケーションに関する研究
デジタルサイネージに関する研究